

小学児童とその保護者を対象にした防災意識調査

北海道大学 工学院環境フィールド工学専攻 ○学生員 小舘亮太
北海道大学 工学研究院環境フィールド工学部門 正会員 田中岳

1. はじめに

「防災教育」の重要性は、年々高まってきている。学校、家庭、職場などでの防災教育を普及させる事は災害発生時において人命に直接関わるため、非常に重要である。内閣府中央防災会議¹⁾の報告では「学校における防災教育を推進すべきである」と示している。文部科学省²⁾にても「災害時における児童生徒等の安全の確保及び防災対応能力育成のため、必要な安全教育や自他の生命尊重の精神、ボランティア精神を培うための教育の徹底が図られるよう、関係機関に対し、指導及び助言を行う」としている。

現在、学校では通学路を含めた防災への取り組みを行っている。しかし、城下・河田³⁾によって現在の学校防災教育が戦後に比べて減少している事が明らかにされており、豊沢⁴⁾により、「どのように防災教育を実施したらよいかわからない」という教師の声が明らかにされている。また東日本大震災以降、全国的に防災教育の大切さを再認識、再確認しようという流れができている。

この現状を踏まえ、今後の学校での防災教育をより充実させるため、防災教育を受ける側の意識を知る事で、どのような防災教育内容が効果的なのかを探る必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、防災意識の向上を目的とした防災教育プログラムの開発を目的とする。そこで、防災教育プログラム開発のため、児童とその保護者を対象者にし、防災に対しての意識の実態を把握するための意識調査を行う。また防災教育の普及が防災意識の向上という観点の基、意識調査をする事で、今後の防災教育の推進の基盤を作る事も研究目的とする。

3. 防災意識に関するアンケートについて

2011年11月、札幌市内K小学校において第5学年(88名)、第6学年(90名)計178名を対象にアンケートを実施した。同様に保護者へもアンケートを配布し、後日回収した。保護者からは90名の回答が得られた。

3. 1. アンケート設問内容について

児童の防災意識調査を行った此松・中北の既往研究⁵⁾を基に、児童とその保護者へのアンケートを作成した。その概要を以下に示す。児童へは【1】～【4】について、保護者へは【1】～【5】について質問した。

【1】回答者自身とその周りの環境について

性別、家族構成や本人と親族の災害経験の有無、自分の住む居住地域の避難場所やハザードマップを知っているかを聞いた。また防災イベントの参加状況と参加しない場合の理由を聞いた。

【2】家庭での防災教育について

家庭での防災対策や、自身が家族と災害や避難方法や連絡の仕方について話し合う機会があるかを聞いた。また学校での避難訓練や災害についての話などを子供から話されるか否かを聞いた。

【3】(子供が受ける)学校での防災教育について

防災教育や災害を勉強する事に必要性を感じているのか、必要性を感じない場合の理由、また教えて欲しい防災教育の内容を聞いた。

【4】地域での防災教育について

自身が住む地域での防災教育について、避難訓練の有無や避難経路、避難場所を知っているかなどを聞いた。

【5】自由回答

災害や、学校・地域での防災教育について改善点やアイデア等、思うところを自由に書いてもらった。

キーワード 防災教育, 防災意識, アンケート, 意識調査, 保護者

連絡先 〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8丁目 水工・水文学研究室 TEL011-706-6199

表 - 1 自由回答例

備えはしなければと思いますが、身に危険を感じた事が無いのでどこか他人事のように感じています。	子供が小学校で避難訓練をしている事もあり安心を感じました。近所の人との関わりも重要に感じます。
防災グッズを用意しておこうと思いつつ、平穩に日々が過ぎるとつい後回しになってしまう。危機意識が足りない。	自分の防災意識は実体験が無いので低いです。子供もそうですが、親に意識を高めて欲しいと思います。
札幌に住んでいると台風や地震などの影響が少ないため、他人事のような気がしていました。	家族バラバラで災害にあった時の事を想定して対策を考えたいと思いました。
子供と一緒にいない時に災害が起きた時の避難場所の確認は日頃からした方がいいと思いました。今度、子供としっかり確認したいと思います。	アンケートに答えて、自分の防災に対しての取り組みが中途半端である事を反省しました。今後は閲覧板などをしっかり読むようにしたいと思います。

表 - 2 自由回答分類

①平常時の行政の防災対策	④ハザードマップについて	⑦避難所について	⑩水害について	⑬防災意識について
②災害時の行政の防災対策	⑤高齢者・障害者について	⑧避難経路について	⑪地震について	⑭備えについて
③地域との関わりについて	⑥アンケートによる意識啓発	⑨情報伝達について	⑫東日本大震災について	⑮その他

4. アンケート結果と考察

著者ら⁶⁾は、既に児童への防災意識調査を実施している。その結果を踏まえ、本研究では児童とその保護者の防災意識の比較検討を行う。また保護者の【5】自由回答について注目し、結果と考察についても合わせて述べる。自由回答は、保護者回答 90 名中、40 名から得られた。

【2】家庭での防災教育について

「保護者もしくは子供と一緒にいない時に災害が起きた際の避難方法について話し合っているか」という問いでは、話し合っていると回答した子供は全体の 3 割であるのに対し、保護者は 5 割だった。災害時には、家族と一緒にいるとは限らない。予め避難経路や避難場所を決めておいた方がよい。しかし親は子供に情報を伝えているつもりでも、子供との間にズレが生じている事がわかった。また保護者自身への問い「避難場所を知っているか」では、知らないと回答した保護者は 4 割、「避難経路を知っているか」という問いでは、回答者の 7 割は知らなかった。家族間での防災教育や、回答者（保護者）自身の地域や職場での防災対策が求められる。

【5】自由回答

表 - 1 に回答例を示す。自由回答項目を表 - 2 のように分け、それぞれ分類した。⑭防災に対する備えが意見として最も多く、自由回答 40 名中 15 名が備えについて触れていた。自由回答の意見でも、家族間での防災教育や防災対策の重要性を指摘する回答がある。またアンケートを実施する事自体で、防災意識が高まるといった意見が得られた。

5. おわりに

本研究では、児童とその保護者を対象にし、防災意識調査を実施した。その結果として、家庭内での避難場所や避難経路の確認については、児童とその保護者との間で、相違がある事が明らかになった。

今後は、学校、家庭、行政、地域が一体となった防災教育が求められるため、本調査を踏まえ、実践的な防災教育プログラムを開発する予定である。

謝辞

ご協力頂いた K 小学校の校長先生をはじめ、学校関係者の皆様、保護者の皆様に心より感謝いたします。

参考文献

- 1) 中央防災会議「防災に関する人材育成・活用門調査会」（平成 15 年）<http://www.bousai.go.jp/jinzai/index.htm>.
- 2) 文部科学省「文部科学省防災業務計画」（平成 20 年）http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/gyomu/04052101.htm.
- 3) 城下英行・河田恵昭：「学習指導要領の変遷過程に見る防災教育展開の課題」, 自然災害科学, Vol.26, No.2, pp.163-176, 2007.
- 4) 豊沢純子：「学校における防災教育の現状と今後のあり方」, 学校危機とメンタルケア第 2 巻, pp.9~19, 2011.
- 5) 此松昌彦・中北綾香：和歌山県北部の児童・生徒・学生に行った防災教育意識調査, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, No.20, pp.133~142, 2010.
- 6) 小舘亮太・田中岳：札幌市内小学校における高学年を対象にした防災意識調査, 土木学会北海道支部論文報告集, 第 68 号 (CD-ROM), D-01, 2012.